

会 議 録

(1)実施概要

会議名称	第2回泉大津市こども・子育て会議
開催日時	平成26年3月25日(火)午後1時30分～午後3時45分
開催場所	泉大津市立高齢者保健福祉支援センター(ベルセンター)2階会議室
出席委員 (名簿順。敬称略)	長瀬委員、久委員、川西委員、大橋委員、坂上委員、竹田委員、 納谷委員、花重委員、佐々井委員、内藤委員、伊藤委員、 竹中委員、田中委員、阪上委員 (欠席)肥田委員 全15名のうち、出席14名、欠席1名
事務局	堀内教育部長、小川教育部理事、今北社会福祉事務所長、 向井児童福祉課長、片山健康推進課長、向井指導課長、東山教育総務課長、 政狩生涯学習課長 児童福祉課幼保一体化推進グループ(岡田課長補佐、早野指導主事、藤川総 括主査、河村) <委託業者>株式会社ぎょうせい木村
会議次第	1. 開会 2. 案件 ①ニーズ調査結果について ②教育・保育提供区域について ③泉大津市の子育て支援の現状と課題 ④その他 3. 閉会
会議資料	【事前配付資料】 資料1 次世代育成支援を進めるためのアンケート調査報告書 資料2 教育・保育提供区域の設定について 資料3 泉大津市の子育て支援の現状と課題 資料4 泉大津市子ども・子育て会議〈論点整理〉 【当日配付資料】 ● 泉大津市立認定こども園についての基本方針 ● ご意見・ご提案用紙 ● 資料の差し替え
会議の公開／非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開(傍聴者数2名) <input type="checkbox"/> 非公開
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録
その他の必要事項	なし

(2)審議概要(意見要旨、審議経過、決定事項等)

事務局進行 会長進行	<p>1. 開会 (記録省略)</p> <p>2. 案件</p> <p>議事① ニーズ調査結果について</p> <p>議事② 教育・保育提供区域について</p> <p>議事③ 泉大津市の子育て支援の現状と課題</p> <p>議事④ その他(泉大津市立認定こども園についての基本方針)</p> <p>※事務局より上記を説明(記録省略)</p>
会長	◇ニーズ調査結果について、各委員からの意見をうかがいたい。
副会長	<p>◇地域のコミュニケーションがしっかりしているところはいいが、地域によっては転入者が孤立してしまうところもある。また、アンケート調査の休日保育に関していえば、土日や祝祭日が休日ではない働き方をしているケースもある。こうした多様性をどう捉えるかを慎重に考えていく必要があると思う。</p> <p>アンケート結果報告の72頁、問20では、「あて名のお子さんが参加したことがある地域での自然体験、社会参加、文化活動はどれですか。」という設問がある。残念ながら泉大津市は、自然環境に恵まれているとはいえない。しかし、自然の豊かなところだけが本当に子どもに良いかという点について、これまでの調査結果を紹介したい。</p> <p>ある市の小中学生講座で子どもたちにビデオを撮ってもらった。北部のニュータウンと南部の下町に住む子どもたちではビデオの内容に違いがあった。</p> <p>北部の郊外に住む子どもたちは自然を撮り、南部の下町に住む子どもたちはおばちゃんなどを撮っていた。これは、下町の子どもたちは、自然環境は決して豊かではないが、社会環境は豊かであるという表れだと思う。</p> <p>また、別の市での調査で、小学生の一人は『私たちの住むところは自然が少ないといわれていますが、その代わりにたくさんの方がいます』と回答している。これは人間関係を中心として成長が育まれているということであり、自然環境の豊かなところで育つ子どもたちとは傾向が違う。こうした地域特性を見据えながら子どもたちをどう支援していくかを慎重にみていく必要がある。</p> <p>もうひとつ事例を紹介したい。ある大学院生が沖縄県で空き店舗を借りて寺子屋を始めた。寺子屋の名前は「道草」で、昔の子どもたちは道草を通していろいろな体験をしてきたが、今の子どもは、道草ができる環境にはなく、道草の中で創造性を育むことが少ない。寺子屋に寄って創造性を育てほしいという思いから「道草」という名前をつけたという。創造性は自然や地域のおじさんやおばさんを通じて育まれていくはずだ。子どもたちは経験の中から、何かを感じとって成長していくはずだ。必ずしも下町的な環境が悪いわけではなく、その接し方、接した中での心の持ち方が大切だと思う。</p> <p>こうした調査結果も踏まえて、調査結果を読み取っていただければと思う。</p>
会長	◇自然環境や地域の人々の温かい環境の中で子どもたちの成長が育まれていく。 したがって、アンケート結果を一面的に読み取るのではなく、子どもたちを取り巻く多様な環境を踏まえながら、次世代を育成する方策を検討してほしい。

委員	<p>◇第1回の議事録を改めて読み直してみて、大切な視点があると思った。</p> <p>議事録には『もっとも大切なことは子ども目線であり、子どもの安定した生活と健やかな発達を守ることである』『会議では子どもの目線で考えていきたい。保護者の不安も子どもの育ちに対する不安であり、子ども目線で検討することが不安感の解消にもつながると思う』『新しい制度は保護者のメリットが書かれているが子どもにとってのメリットも重要であり、各委員の意見を聞くと、保護者の不安もそこにあると感じた』『子どもにとってのメリットは、就労の有無にかかわらず、すべての子どもたちが健やかに成長すること、すべての子どもの育ちの場を同じくすることを考えていかなければならない』とあった。大事なのは子どもが安心できる視点に立つことだ。</p> <p>さらに、『ニーズに関しても、保育に関する「量」と「質」に関連した設問がある。「すべての子どもに良質な成育環境」や「子どもの目線」を具体的に考える場合、「質」を考えていくことが子ども目線の追求につながる。』という視点も大切だと思った。今後、こうした視点を共通の認識として泉大津市の子育て支援の在り方を考えていかなければならないと思った。</p> <p>ニーズ調査の結果については今後検討していくべき課題だと思う。ニーズ量は次回の会議で検討するということが、ニーズ量を検討する際には現行の「次世代育成支援後期行動計画」を参考にしていきたい。</p> <p>この中の児童数推計や目標とする保育提供量などが示されているが、現在の数値と概ね近いものとなっている。これを参考に今後5年間のニーズ量を設定していただきたい。あわせて就学前児童の今後の5年間の推移についても次回に提出いただくことを要望する。</p>
会長	<p>◇保護者の就労に関わらず、すべての子どもたちの育ちを最優先とすることを今回も改めて確認した。</p> <p>ニーズ量については、平成21年度の「次世代育成支援後期行動計画」を踏まえて、事務局に次回に出していただく。</p>
委員	<p>◇「おやこ広場」をたくさんの方が利用しているが、アンケート結果では子育てについて気軽に相談できるのが「ご自身の親や配偶者の親、親せき、(同居している)家族」83.4%、「配偶者」79.2%、「友人や知人」73.8%となっている。</p> <p>私が身近に接している子育て中の母親の中には、地方から泉大津市に転入してきたため、周りに親しく相談できる人がいないという人もいた。頼る人のいない中で母親がひとりで一生懸命子育てしている。</p> <p>里帰り中は、いろいろな人に囲まれながら賑やかに子育てをしていたが泉大津市では孤独だという話も聞いた。「おやこ広場」ではそういうことも母親同士で話している。また、一番困るのは、自分が病気になった時に病院に行けないことだという母親もいた。それを聞いた友人が「その時には預かっていいよ」と声をかけてくれた。こうした実態は、アンケート調査の結果に表れていないと思う。こうしたことも見ていく必要があると思う。</p>
会長	<p>◇ご指摘にあるように、実際の数字以上に支援が必要な方が現実にはいらっしゃる。こうした方も支えていく必要があると思う。</p>

委員	<p>◇子どもが小さいときに「子育て広場」を利用して、いろいろと相談を聞いてもらい、そこで友達もできた。</p> <p>私のように近所に見てもらえる親戚がいる人だけではなく、結婚して泉大津市に来て孤独感の中で子育てをしている人もいます。そうした人のニーズも知りたいと思った。</p>
会長	<p>◇親戚はいるけど、友人知人がいない中などで子育てをしている保護者も多い。</p> <p>子育てに不安がある人の数字は、アンケート報告書の数値にはでていない。こうした人も視野に入れる必要があるという意見を参考にさせていただきたい。</p>
委員	<p>◇子育てで悩んでいる保護者の方が実際に行動できるかどうか大きい。アンケート調査の問6-1では「どのような環境になれば、もう一人生みたいか」を聞いているが、回答は「その他」42.1%、「収入が増えれば生みたい」41.9%だ。その他の主な回答を見ると「保育料の無料化」「病気などの時にすぐに預かってもらえる人が近くにいること」「妊娠、授乳での医療援助を受けられること」「子ども医療、幼稚園補助の充実」などが挙げられている。</p> <p>ここには出ていないが制度が充実していれば、産みたいという人もいるのではないかと思う。</p> <p>制度を理解していることによって、施設などに問い合わせを行うという行動を起こすこともある。制度の周知を見直して、市民の全員に「子ども・子育て制度」を認知していく必要があると思った。</p> <p>また、問27「子育てに関する情報をどのように入手していますか」については、情報の入手先は、「近所の人、知人、友人」70.9%が最も多く、「幼稚園、保育所、認定こども園」56.0%、「親族（親、兄弟姉妹等）」51.6%と続く。</p> <p>こうした割合を平均化していくことも、行政の義務だと思う。市民、施設、行政が連携をとりながら、制度や情報の徹底を見直していくことが大切だと思った。</p>
会長	<p>◇近所に友人や知人がいない、認定こども園、幼稚園や保育所を利用していない人などにも情報を届けていくことを計画策定の中で取り入れていけたらいいと思う。</p>
会長	<p>◇次に、提供区域についての議論を進める。</p> <p>事務局からは3区域を提案している。これについてご意見をいただいたうえで、泉大津市の提供区域について本日決定したいと思う。</p>
委員	<p>◇次年度小学校に入る保護者の中には、選べる区域設定を希望している保護者もいる。自宅から遠くてもその幼稚園に行きたいという希望もある。</p> <p>設定されているからその幼稚園を選ぶということではなく、先生の熱意や施設環境などで選択している保護者がたくさんいる。また、良い意味で公立幼稚園同士が競争をしながら、幼稚園の質を高めていただきたいという声も保護者から出ている。</p>
委員	<p>◇小学校区8区域はわかりにくいと思うので、3区域に賛成したい。また、話は飛ぶが、資料に目を通す時間がないので、せめて1週間前に資料が届いてくれればと思う。</p>
会長	<p>◇委員に、あらかじめ目を通していただく時間も必要なので、次回以降、事務局に早めの資料提供をお願いします。</p>

委員	<p>◇子どもたちや保護者が容易に移動することができることが区域設定の基本だと思う。たとえば雨の日、お子さんを自転車にのせて移動するというのも結構ある。そういうことも含めて安全に容易に移動できる区域設定を考えていくも必要だ。</p> <p>3区域という案が出されているが、3つの区域の中に複数の保育、教育施設などをバランスよく配置することを前提としてほしい。また、小学校区の地図の中に、認可保育所、学童保育などの施設すべて書き入れたマップや施設別、年齢別、在籍状況などの一覧表を作成すること事務局にお願いしたい。こうした資料を基にするとより良い計画策定ができると思う。</p>
会長	<p>◇考え方としては3区域を基本に、その中に多様な施設を配置するというご意見だった。また、ご提案の資料に関しては次回までに事務局に資料を出していただきたい。</p>
委員	<p>◇提供区域については中学校区域ぐらいの3区域でいいと思う。子育て支援センターの「たんぽぽ」を通して、たくさんの友人や知人と知り合ったという人もいた。就学前に、そうしたつながりを幅広く作っておくことも大切で、それには中学校区ぐらいが適当だと思う。</p> <p>今年の4月から認定こども園をスタートさせるが、昨年10月に赤ちゃんを対象とした広場を設けた経験から話すが、駐車場が限定されているため、車での来場は断ったが、赤ちゃんを連れてくるにはやはり車が便利だ。3区域には、駐車場などを含めた利用のしやすさも盛り込んでほしい。</p>
委員	<p>◇子どもの数が減っていく現状だが、3区域ではなく2区域にするということは考えられないか。</p>
事務局	<p>●区分については道路、地域性、電車や電車の路線で区分するなどいろいろと論議を重ねた。原案の3区域以外の小学校区8区域についても検討したが、長所・短所を考慮して3区域が最もバランスがとれると考え、提案した。</p>
会長	<p>◇現実に小学校を終わって中学校に進むときに保護者にとっては中学校区の3区域の方がイメージはもちやすく生活実感もある。そうしたことも配慮した3区域だと思う。</p>
委員	<p>◇地域の中で子どもを育てるとというのが基本だと思う。私の施設では避難訓練の際には保護者も参加しながら、いち早く子どもを迎えに来るといった訓練も行っている。</p> <p>施設にとっては、緊急の時に対応しやすいということも大事だ。そういう視点も大切に考えてほしい。</p>
会長	<p>◇災害時に中学校区域であれば十分に対応できるというご意見だった。今までのご意見をうかがうと3区域であればこういうことが可能ではないかというご意見がいくつか続いていると思う。そのほかのご意見があればうかがいたい。</p>
委員	<p>◇地域内の利用が原則だが、たとえば、地域を超えて駅の近くが良いということもある。必要に応じて地域を超えての利用も可能であれば良い。</p>
会長	<p>◇これまでの意見を踏まえて3区域で決定する。</p>

会長	◇次に「現状の課題」についてご意見をうかがいたい。
委員	<p>◇課題についてはよくまとまっているが、あえて質問させていただく。</p> <p>まず、病後・病後児保育だが、1年間にお子さんの病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかった経験について、「利用できなかった」という人が80%もいる。また対処方法は、「母親が仕事を休んだ」53.9%が最も多く、「ご自身の親や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった」36.6%、「働いていない父親か母親が子どもをみた（同居者を含む）」34.5%と続いている。「子どもだけで仕方なく留守番をした」という意見は0.8%と少ないが、こういうこともなくしていかなければならない課題だと思う。</p> <p>「利用のしかたがよくわからない」「利用したくても手続きが大変」だということを利用して控えている人もいる。今後利用させていくためには何が必要なのかを考えていかなければならないと思う。そのためには、情報をいきわたらせていく必要がある。</p> <p>障がい児保育の課題については、ここに書かれているだけでは不十分だと思う。障がい児を含めてすべての子どもが最適に成長のできることが基本だ。障がいのある子どもに関しては、親の就労に関係なく、すべての障がい児を支援する仕組みをぜひ確立していただきたい。</p>
委員	<p>◇障がい児への支援について、民間では放課後サービスという形で障がい児をお預かりしている。それとは別に障がい児を支援するNPO法人が新しく泉大津市にできた。</p> <p>今までは放課後の障がい児の預かりは小学校3年生までだったが、話し合いが行われた結果、障がい児を預かる施設が学校に迎えに行くディサービスが行われることになった。</p> <p>また、障がい児の保護者は、自宅で面倒を見るのは大変だということで、さらに宿泊サービスを期待するようになっている。しかし、障がい児の保護者のニーズにどこまで対応するのが良いのか、今後の課題だ。</p>
会長	◇障がい児の現状は相当厳しい。その中で子育てをしている保護者のニーズにも対応していく必要はある。
会長	◇次に「その他」に進む。
事務局	●泉大津市の「泉大津市立認定子ども園についての基本方針」を説明(記録省略)
委員	◇新規に検討する2つの認定子ども園について説明をいただけるか。
事務局	●今後、検討していく段階であり、まだ決まっているものはない。

会長	◇会議では、何が泉大津市に必要なのかについて議論を深めていきたい。その結果が認定こども園の設立ということにつながっていくということも十分考えられるが、2つの認定こども園と3区域との関連性はあるのか。
事務局	●認定こども園は本計画に整合性をもたせている。ニーズ量によって、ひとつの地域に2つの園が必要となる場合もあると思う。
委員	◇2つ以外に増える可能性もあるのか。
事務局	●ニーズ量を考えたときに2の園に限らず増える可能性もあると思う。ご意見をいただきながら検討していきたい。
副会長	◇基本指針の方向性や考え方の中に、具体的な配置などが出ているのは踏み込みすぎではないか。
会長	◇泉大津市として認定こども園をどのように考えていくのかの指針は分かるが、具体的な配置計画は削ったほうが良いという意見について事務局の見解はどうか。
事務局	◇市としての基本的な考え方を基本指針に示した。現在、市内には公立幼稚園8園、保育所7園あるが、その中から当然ニーズ量が出てくる。市の指針として方向性を出したものだご理解いただきたい。
副会長	◇計画と指針はどのような関係になるのか。先に具体的な計画ありきでは会議の意味がないと思う。
事務局	◇最終的なニーズ量提供に関しては子ども子育て会議の中で決定していくということに変わりはない。
委員	◇現場からの声だが、年少さんから入られる保護者の方から1年しか利用しないにもかかわらず、制服を新調する必要があるのかという疑問がでている。 認定こども園ができたときの対応について保護者が先行して考えていくのではなく、市でも細部にわたって目を配ってほしい。
会長	◇不安とかいろいろなことがでてくる。そうしたことも市では考えていってほしい。
委員	◇資料3に子育ての経済的負担の軽減が記載されています。現在、泉大津市の子どもが近隣他市の幼稚園に300人以上通っています。利用者目線の話ですが、子育て支援のためにも就園奨励費は継続して欲しいと思います。 ◇障がい児に対して質の高い教育を具体的に考えていただきたい。支援が一番必要な子どもたちのことを考えていくことこそ、すべての子どもたちの保育教育の質を高めることにつながると思う。そこを大切にしてほしい。

会長	◇すべての子どもたちが幸せになる計画を会議の中で進めていきたい。
事務局	●資料4は前回の論点をまとめた。 次回の会議は5月頃を予定している。